



2004年度中間決算【補足資料】

2004年11月17日

- I : データ編
- II : 会社案内編

ITX 株式会社

[目次]

I	データ編	
1.	中間業績	3
	連結損益推移 中間期実績	4
	セグメント 中間期 連結損益推移	5
	主要子会社別中間期前年同期比	6
	主要子会社別中間期売上高推移	7
	主要子会社別中間期営業利益推移	8
2.	通期見通し	9
	連結損益推移 通期見通し	10
	セグメント 2003年度通期連結実績・2004年度通期連結見通し	11
	主要子会社別売上高推移 03年度通期連結実績・04年度連結見通し	12
	主要子会社別売上高推移(02・03年度通期実績、04年度通期見通し)	13
	主要子会社別営業利益推移(02・03年度通期実績、04年度通期見通し)	14
3.	主要子会社 実績・見通し	15
	ITX単体、AVS、ITXイー・グローパルレジ、ソリスト、テクマトリックス、アイ・ティー・テレコム	16~21
	ITX営業開始後に創業または買収した主な会社の状況	22
	ITX営業開始後に買収/再編した主な会社の状況	23
4.	バランスシート	24
	連結・単体	25~28
5.	投資実績	29
	ITXグループ会社および投資先	30
	投資残高	31
	2004年度中間期 ITX単体および米国投資子会社からの投資実績	32
	2004年度中間期実績 主な投資先概要	33~34
II	会社案内編	
6.	会社概要	35 (36~43)
7.	経営基本計画	44 (45~60)

1. 中間期業績

連結損益推移 中間期実績

(単位：億円)

	2003年度 中間期実績	2004年度 中間期実績	前年同期比
売上	1,726	1,586	△140
（投資育成）	(12)	(84)	(72)
（機器販売・サービス）	(1,714)	(1,502)	(△212)
売上総利益	215	168	△47
（投資育成）	(9)	(42)	(33)
（投資評価損）	(△1)	(△2)	(△1)
（機器販売・サービス）	(207)	(128)	(△79)
販売管理費	△217	△142	75
（投資育成）	(△8)	(△8)	(-)
（機器販売・サービス）	(△209)	(△134)	(75)
営業利益	△2	26	28
（投資育成）	(△0)	(32)	(32)
（機器販売・サービス）	(△2)	(△6)	(△4)
営業外損益	15	△59	△74
経常利益	13	△33	△46
特別損益	△33	15	48
中間純利益	△26	△25	1

※単体の販管費は投資育成と機器販売・サービスに50%ずつ配分

セグメント 中間期連結損益推移 (2003年度中間期・2004年度中間期)

(単位：億円)

	ライフサイエンス		ネットワーク&テクノロジー		モバイル		ビジネスイノベーション		消去または全社		合計	
	03年度中間期	04年度中間期	03年度中間期	04年度中間期	03年度中間期	04年度中間期	03年度中間期	04年度中間期	03年度中間期	04年度中間期	03年度中間期	04年度中間期
売上	8	49	882	681	816	803	23	53	△3	-	1,726	1,586
(投資育成)	(-)	(10)	(9)	(74)	(-)	(-)	(3)	(0)	(-)	(-)	(12)	(84)
(機器販売・サービス)	(8)	(39)	(873)	(607)	(816)	(803)	(20)	(53)	(△3)	(-)	(1,714)	(1,502)
売上総利益	3	13	110	58	94	88	8	9	0	-	215	168
(投資育成)	(-)	(9)	(6)	(33)	(-)	(-)	(3)	(0)	(-)	(-)	(9)	(42)
(投資評価損)	(-)	(△1)	(△1)	(△1)	(△0)	(-)	(△0)	(△0)	(-)	(-)	(△1)	(△2)
(機器販売・サービス)	(3)	(6)	(105)	(26)	(94)	(88)	(5)	(9)	(0)	(-)	(207)	(128)
販売管理費	△4	△11	△113	△30	△85	△85	△9	△10	△6	△6	△217	△142
(投資育成)	(△1)	(△1)	(△3)	(△3)	(△0)	(△0)	(△1)	(△1)	(△3)	(△3)	(△8)	(△8)
(機器販売・サービス)	(△3)	(△10)	(△110)	(△27)	(△85)	(△85)	(△8)	(△9)	(△3)	(△3)	(△209)	(△134)
営業利益	△1	2	△3	28	9	3	△1	△1	△6	△6	△2	26
(投資育成)	(△1)	(6)	(2)	(30)	(△0)	(△0)	(2)	(△1)	(△3)	(△3)	(0)	(32)
(機器販売・サービス)	(0)	(△4)	(△5)	(△2)	(9)	(3)	(△3)	(△0)	(△3)	(△3)	(△2)	(△6)

※ 単体の販管費は投資育成と機器販売・サービスに50%ずつ配分

主要子会社別中間期 前年同期比

(単位：億円)

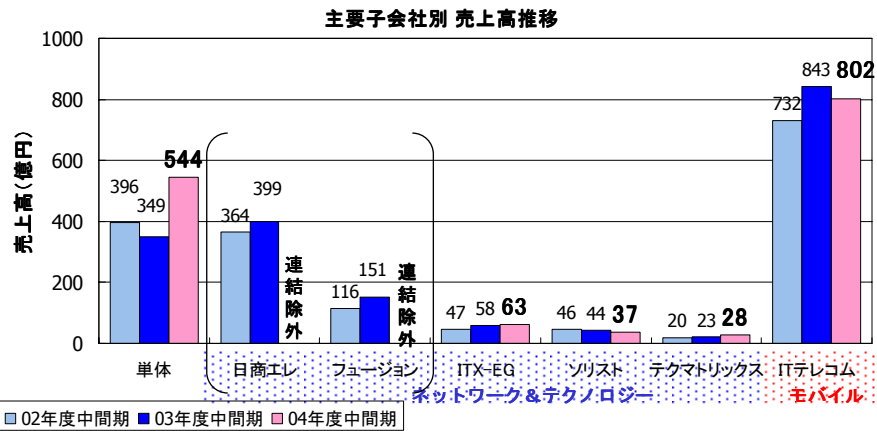
04年度中間期実績	単体	AVS	ITX-EG	ソリスト	TMX	ITテレコム
売上	544	36	63	37	28	802
営業利益	△12	0	1	0	2	14
経常利益	△27	0	1	0	2	14
中間純利益	37	0	1	0	1	7

03年度中間期実績	単体	AVS	ITX-EG	ソリスト	TMX	ITテレコム
売上	349	-	58	44	23	816
営業利益	△4	-	2	0	△0	19
経常利益	14	-	2	0	△0	18
中間純利益	△16	-	1	0	△0	10

前年同期比	単体	AVS	ITX-EG	ソリスト	TMX	ITテレコム
売上	195	36	5	△7	5	△14
営業利益	△8	0	△1	0	2	△5
経常利益	△41	0	△1	0	2	△4
中間純利益	53	0	0	0	1	△3

※ 表中社名は一部略称使用。ITX-EG=ITXイー・グローバルレッジ、ITテレコム=アイ・ティー・テレコム、TMX=テクマトリックス、ソリスト=東京電音が本年10月商号変更

主要子会社別中間期売上高推移



※ 03年度アイ・ティー・テレコムは決算期変更。02年度は1月～6月の実績。03年度、04年度は4月～9月の実績を反映。

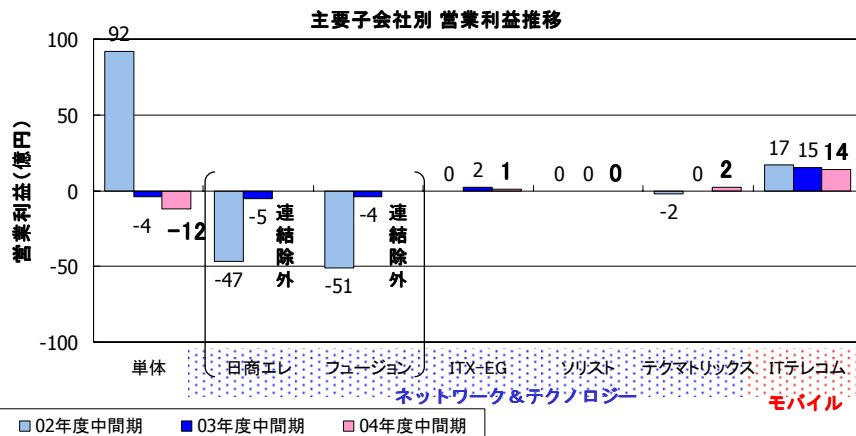
※ 日商エレクトロニクス数値にはフュージョン数値を含む。

※ 数値はITX決算取り込み数値ではなく個社数値

※ グラフ中社名は一部略称使用。日商エレ=日商エレクトロニクス、フュージョン=フュージョン・コミュニケーションズ、ITX-EG=ITXイー・グローバルレッジ、ITテレコム=アイ・ティー・テレコム。

※ 東京電音(株)は04年10月より(株)ソリストに商号変更。

主要子会社別中間期営業利益推移



※ 03年度アイ・ティー・テレコムは決算期変更。02年度は1月～6月の実績。03年度、04年度は4月～9月の実績を反映。

※ 日商エレクトロニクス数値にはフュージョン数値を含む。

※ 数値はITX決算取り込み数値ではなく個社数値

※ グラフ中社名は一部略称使用。日商エレ=日商エレクトロニクス、フュージョン=フュージョン・コミュニケーションズ、ITX-EG=ITXイー・グローバルレッジ、ITテレコム=アイ・ティー・テレコム。

※ 東京電音(株)は04年10月より(株)ソリストに商号変更。

2. 通期見通し

連結損益推移 通期見通し

(単位：億円)

	2003年度通期実績	2004年度 通期見通し	前期比
売上	4,120	3,250	△870
（投資育成）	(147)	(140)	(△7)
（機器販売・サービス）	(3,973)	(3,110)	(△863)
売上総利益	557	387	△170
（投資育成）	(108)	(92)	(△16)
（投資評価損）	(△13)	(△6)	(7)
（機器販売・サービス）	(462)	(301)	(△161)
販売管理費	△477	△310	167
（投資育成）	(△16)	(△16)	(-)
（機器販売・サービス）	(△461)	(△294)	(167)
営業利益	79	77	△2
（投資育成）	(78)	(70)	(△8)
（機器販売・サービス）	(1)	(7)	(6)
営業外損益	14	△70	△84
経常利益	94	7	△87
特別損益	△40	12	52
当期純利益	6	10	4

※単体の販管費は投資育成と機器販売・サービスに50%ずつ配分

セグメント 2003年度通期連結実績・2004年度通期連結見通し

(単位：億円)

	ライフサイエンス		ネットワーク&テクノロジー		モバイル		ビジネスイノベーション		消去又は全社		合計	
	03年度実績	04年度見通し	03年度実績	04年度見通し	03年度実績	04年度見通し	03年度実績	04年度見通し	03年度実績	04年度見通し	03年度実績	04年度見通し
売上高 (投資育成) (機器販売・サービス)	(11)	(94)	(1,819)	(1,153)	(2,085)	(1,752)	(63)	(111)	(147) (△6)	(140) (-)	4,120 (147) (3,973)	3,250 (140) (3,110)
売上総利益 (投資育成) (機器販売・サービス)	(5)	(15)	(213)	(77)	(232)	190	(14)	(19)	(94) (△1)	(86) (-)	557 (94) (462)	387 (86) (301)
販売管理費 (投資育成) (機器販売・サービス)	(△7)	(△19)	(△221)	(△69)	(△211)	(△181)	(△18)	(△18)	(△16) (△6)	(△16) (△7)	△477 (△16) (△461)	△310 (△16) (△294)
営業利益 (投資育成) (機器販売・サービス)	(△2)	(△4)	(△8)	(8)	(21)	(9)	(△4)	(1)	(78) (△6)	(70) (△7)	79 (78) (1)	77 (70) (7)

※ 単体の販管費は投資育成と機器販売・サービスに50%ずつ配分
 ※ 投資育成関連の数値に関しては、各セグメントの合計数値を全社の欄に合計して表記しております。

主要子会社別2003年度通期連結実績・2004年度連結見通し

(単位：億円)

04年度 通期見通し	単体	AVS	ITX-EG	ソリスト	TMX	ITテレコム
売上	946	83	151	80	65	1,738
営業利益	18	0	7	0	5	25
経常利益	8	0	7	0	5	24
当期純利益	75	0	4	0	3	13

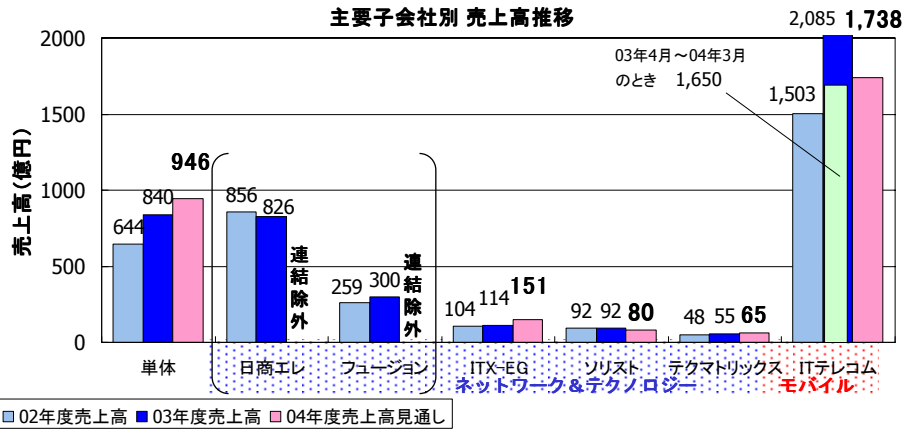
03年度 通期実績	単体	AVS	ITX-EG	ソリスト	TMX	ITテレコム
売上	840	—	114	92	55	2,085
営業利益	59	—	3	1	3	41
経常利益	92	—	3	1	3	39
当期純利益	65	—	2	1	1	20

前期比	単体	AVS	ITX-EG	ソリスト	TMX	ITテレコム
売上	106	83	37	△12	10	△347
営業利益	△41	0	4	△1	2	△16
経常利益	△84	0	4	△1	2	△15
当期純利益	10	0	2	△1	2	△7

※表中社名は一部略称使用。ITX-EG=ITXイー・グローパレッジ、ITテレコム=アイ・ティー・テレコム、
 TMX=テクマトリックス、ソリスト=東京電音が本年10月商号変更。

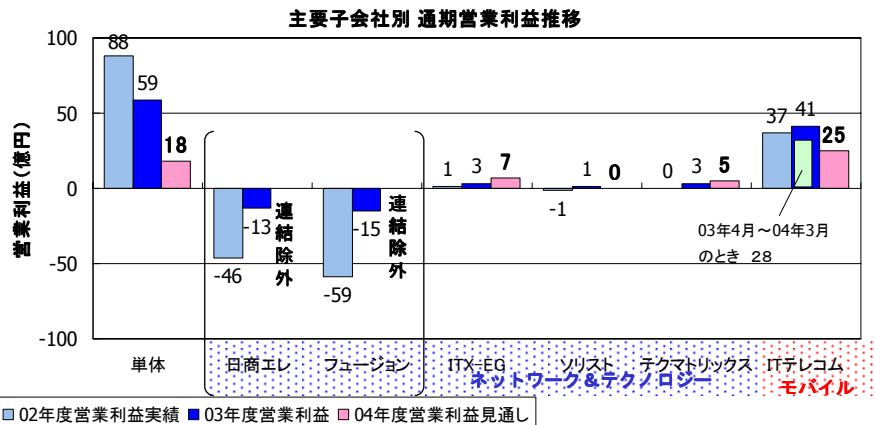
※ ITテレコムの03年度 通期実績には、決算期の変更に伴い平成15年1月1日から平成16年3月31日までの
 15ヶ月間の数値が反映されております。

主要子会社別売上高推移(02年度通期実績、03年度通期実績、04年度見通し)



※03年度アイ・ティー・テレコム実績は決算期変更に伴い03年1月～04年3月の15ヶ月分を反映。
 ※日商エレクトロニクス数値にはフュージョン数値を含む。
 ※数値はITX決算取り込み数値ではなく個社数値
 ※グラフ中社名は一部略称使用。
 日商エレ=日商エレクトロニクス、フュージョン=フュージョン・コミュニケーションズ、
 ITX-EG=ITXイー・グローバルレッジ、ITテレコム=アイ・ティー・テレコム。
 ※東京電音(株)は04年10月に(株)ソリストに商号変更。

主要子会社別営業利益推移(02年度通期実績、03年度通期実績、04年度見通し)



※03年度アイ・ティー・テレコム実績は決算期変更に伴い03年1月～04年3月の15ヶ月分を反映。
 ※日商エレクトロニクス数値にはフュージョン数値を含む。
 ※数値はITX決算取り込み数値ではなく個社数値
 ※グラフ中社名は一部略称使用。
 日商エレ=日商エレクトロニクス、フュージョン=フュージョン・コミュニケーションズ、
 ITX-EG=ITXイー・グローバルレッジ、ITテレコム=アイ・ティー・テレコム。
 ※東京電音(株)は04年10月に(株)ソリストに商号変更。

3. 主要子会社 実績・見通し

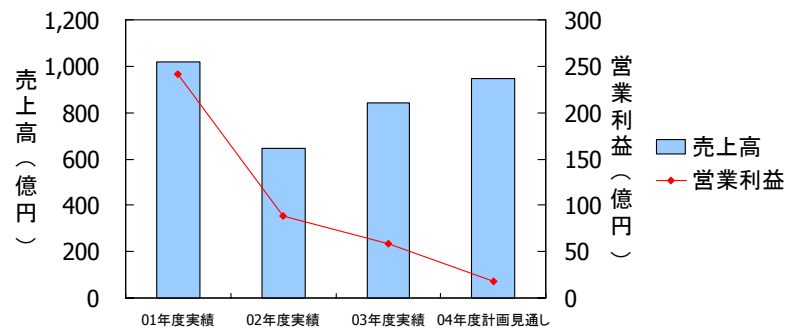
主要子会社 損益推移

ITX単体

(単位: 億円)

	2001年度 実績	2002年度 実績	2003年度 実績	2004年度 中間期実績	2004年度 見通し
売上高	1,017	644	840	544	946
営業利益	242	88	59	△ 12	18
当期純利益	73	△389	65	37	75

※ 2002年4月に機器販売・サービスの一部を分割しITXイーグローバルレッジに承継。



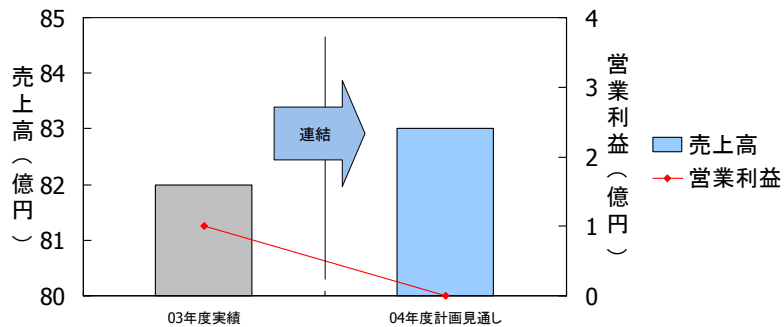
主要子会社 損益推移

AVS

(単位: 億円)

	2003年度 実績	2004年度 中間期実績	2004年度 見通し
売上高	82	36	83
営業利益	1	0	0
当期純利益	0	0	0

※ 2004年4月に㈱オリンパスAVSを買収、2004年度より連結。6月に㈱AVSに商号変更。



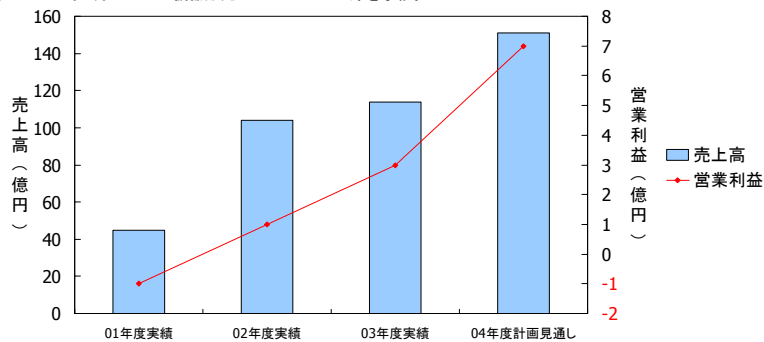
主要子会社 損益推移

ITXイー・グローバルレッジ

(単位: 億円)

	2001年度 実績	2002年度 実績	2003年度 実績	2004年度 中間期実績	2004年度 見通し
売上高	45	104	114	63	151
営業利益	△1	1	3	1	7
当期純利益	△1	1	2	1	4

備考: 2002年4月にITXの機器販売・サービスの一部を承継。



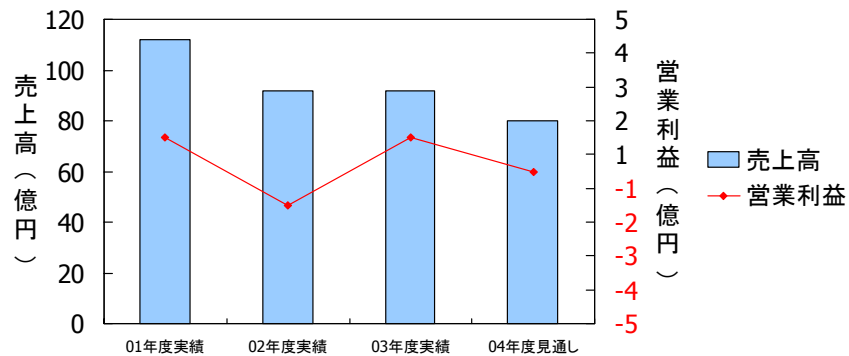
主要子会社 損益推移

ソリスト (旧社名：東京電音)

(単位：億円)

	2001年度 実績	2002年度 実績	2003年度 実績	2004年度 中間期実績	2004年度 見通し
売上高	112	92	92	37	80
営業利益	1	△1	1	0	0
当期純利益	△8	△5	1	0	0

備考：2001年度実績は、IT電子部品、東京電音単純合算の数値。2001年10月に合併。

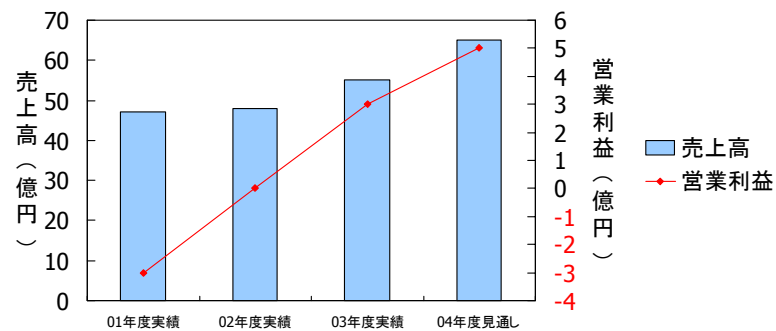


主要子会社 損益推移

テクマトリックス

(単位：億円)

	2001年度 実績	2002年度 実績	2003年度 実績	2004年度 中間期実績	2004年度 見通し
売上高	47	48	55	28	65
営業利益	△3	0	3	2	5
当期純利益	△3	0	1	1	3



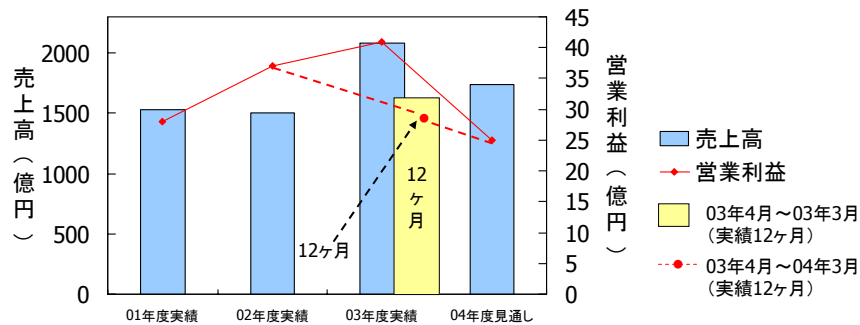
主要子会社 損益推移

アイ・ティー・テレコム

(単位: 億円)

	2001年度 実績	2002年度 実績	2003年度 実績 (15ヶ月間)	(ご参考) (03/4月~04/3月)	2004年度 中間期 実績	2004年度 見通し
売上高	1,530	1,503	2,085	1,650	802	1,738
営業利益	28	37	41	28	14	25
当期純利益	15	18	20	14	7	13

※03年度実績は決算期変更のため、03年1月~04年3月までの15ヶ月間の損益



ITX営業開始後に創業または買収した主な会社の概況

(単位: 億円)

	2000年 通期		2001年 通期		2002年 通期		2003年 中間期		2003年 通期		2004年 中間期		2004年 通期見通し	
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益	売上	営業利益
2000年スタート プロモーションズ DIDS	0	△0	2	△2	5	△2	4	△1	9	△1	5	△2	15	△0
2001年スタート バイオックス コラボス マークエニー・ジャパン ネットプロテクションズ			0	△3	0	△10	1	△5	2	△8	2	△5	7	△5
2002年スタート デジタルアークス ジーンフロンティア ミネルヴァ債権回収 AOIテクノロジー					1	△2	2	△4	9	△10	2	△4	12	△5
2003年スタート IPX モーラネット ラプランタ AltaSense							0	0	10	△2	8	△3	12	△7
2004年スタート AVS Tmedix											36	0	83	0
小計	0	△0	2	△5	6	△14	7	△10	30	△21	53	△14	129	△17

※小計・合計は上記個社数値の単純合計

ITX営業開始後に買収／再編した主な会社の概況

(単位: 億円)

	2000年度 実績		2001年度 実績		2002年度 通期		2003年度 中間期		2003年度 通期		2004年度 中間期		2004年度 通期見通し	
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上	営業 利益
アイ・ティー・テレコム (00年7月ニチメンテレコムを買収、 同年10月NIテレコムと合併)	818	16	1,530	28	1,503	37	816	19	2,085	41	802	14	1,738	25
テクマトリックス (00年7月買収)	50	3	47	△3	48	0	23	△0	55	3	28	2	65	5
ソリスト (00年7月ニチメン電子部品を買収、 01年10月東京電音と合併)	97	2	112	1	92	△1	44	0	92	1	37	0	80	0
ITXイー・グローバレッジ (02年4月にITXのビジネスの一部を承継)	61	2	45	△1	104	1	58	2	114	3	63	1	151	7
AVS (04年4月オリンパスAVSを買収、 ITXのビジネスの一部を移管)											36	0	83	0
オリンパス総合サービス (04年4月買収、NOC日本 アウトソーシングと合併)											14	2	29	3
合計※	1,026	23	1,734	25	1,747	37	941	21	2,346	48	980	19	2,146	40

ITX Corporation

※ 合計は、上記個社数値の単純合計

23

4. バランスシート

連結バランスシート

(単位:億円)

	2004年 3月末	2004年 9月末	増減		2004年 3月末	2004年 9月末	増減
現金及び預金	269	327	58	短期有利子負債	425	253	△172
有価証券	0	0	0	その他流動負債	378	412	34
その他流動資産	458	472	14	長期有利子負債	432	492	60
流動資産	727	799	72	その他固定負債	13	12	△1
有形固定資産	27	27	0	負債合計	1,248	1,169	△79
無形固定資産	366	356	△10	少数株主持分	25	25	0
(内、連結調整勘定)	(342)	(334)	(△8)	資本金・資本準備金	484	484	0
投資有価証券	155	53	△102	利益剰余金	△245	△258	△13
投資育成有価証券	225	152	△73	其他有価証券評価差額	51	30	△21
その他固定資産	55	57	2	その他	△8	△7	1
固定資産	828	645	△183	資本合計	282	250	△32
繰延資産	0	0	0				
				負債、少数株主持分			
資産合計	1,555	1,444	△111	・資本合計	1,555	1,444	△111

2004年度中間期 概況

◆ 連結バランスシート (2004年3月末比)

- **総資産 ⇒ 111億円の減少**
 - 投資有価証券の減少(日商エレクトロニクス株式売却など)
 - 投資育成有価証券の減少(ユーズコミュニケーションズ[UCOM]株式売却など)
- **有利子負債 ⇒ 112億円の減少**
 - 短期借入金の返済(コミットメントライン契約への変更)
- **株主資本 ⇒ 32億円の減少**
 - 主要因
 - ・ UCOM等持分法による投資損失等による当期純損失
 - ・ 其他有価証券評価差額が減少

[※ 株主資本比率 18.1%(03年度末)→17.3%(04年度中間期)]

単体バランスシート				(単位:億円)			
	2004年 3月末	2004年 9月末	増減		2004年 3月末	2004年 9月末	増減
現金及び預金	158	173	15	短期有利子負債	312	136	△176
有価証券	0	12	12	その他流動負債	129	157	28
その他流動資産	65	101	36	長期有利子負債	389	464	75
流動資産	223	286	63	その他固定負債	4	3	△1
有形固定資産	1	1	0	負債合計	834	760	△74
無形固定資産	4	3	△1	資本金・資本準備金	484	484	0
投資育成有価証券	66	90	24	利益剰余金	△234	△197	37
投資育成関係会社株式	181	72	△109	その他有価証券評価差額	49	28	△21
関係会社株式	628	566	△62	資本合計	300	315	15
投資有価証券	11	35	24	負債、少数株主持分			
その他固定資産	20	22	2	・資本合計	1,134	1,075	△59
固定資産	911	789	△122				
資産合計	1,134	1,075	△59				

2004年度中間期 概況

◆ 単体バランスシート (2004年3月末比)

- **総資産 ⇒ 59億円の減少**
 - － 流動資産の増加(売掛金の増加、現預金の増加など)
 - － 投資育成関係会社株式の減少(UCOM株式売却など)
 - － 関係会社株式の減少(日商エレクトロニクス株式売却など)
 - **有利子負債 ⇒ 101億円の減少**
 - － 短期借入金の返済(コミットメントライン契約への変更)
 - **株主資本 ⇒ 15億円の増加**
 - － 主要因
 - ・ 日商エレクトロニクス株式売却などによる当期純利益
 - ・ その他有価証券評価差額が減少
- [※ 株主資本比率 26.4%(03年度末)→29.3%(04年度中間期)]

5. 投資実績

ITXのグループ会社および投資先

(ITX単体および米国投資会社からの投資先数:101社)

04年9月末日 現在

	ライフサイエンス	ネットワーク&テクノロジー	モバイル	ビジネスイノベーション
連結子会社 (27社)	デジタルアークス ジーンフロンティア ティーメディクス	ITXイー・グローハレッシュ ソリスト AltaSens モーラネット テクマトリクス プロモーション* コラボス ネットプロテクション*	アイ・ティー・テレコム ギズモプリュス	アイ・ピー・エックス アトラクス NOC日本アウトソーシング* ミネルヴァ債権回収
持分法適用会社 (13社)	ラブランタ Resect Medical	AOIテクノロジー CATV 5社		
連結対象外 投資先 (61社)	NimbleGen Systems	OINA IP Infusion インフコム ユースコミュニケーションズ* Amphus		
	(15社)	(58社)	(2社)	(26社)

※米国投資子会社以外の子会社からの投資先は含みません

米国投資子会社経由の投資先

上場会社

※米国法人等上表の会社以外にセグメントに含まれない4社があります

投資残高

04年9月末日現在

勘定区分	ITX単体より		米国投資子会社より	
	残高(億円)	社数	残高(億円)	社数
関係会社	566	14	—	—
投資育成関係会社 (内、持分法適用会社)	72 (46)	25 (12)	1 (1)	1 (1)
投資育成有価証券	90	25	13	9
投資有価証券	36	29	1	2
合計	764	93	15	12

セグメント	ITX単体より		米国投資子会社より	
	残高(億円)	社数	残高(億円)	社数
ライフサイエンス	19	10	8	5
ネットワーク&テクノロジー	222	51	7	7
モバイル	408	2	—	—
ビジネスインノベーション	44	26	—	—
全社	71	4	—	—
合計	764	93	15	12

2004年度中間期 ITX単体および米国投資子会社からの投資実績

単位： 億円 (社数)

ITX投資区分	ITX単体からの出資		米国投資子会社からの出資	
	新規投資	追加投資	新規投資	追加投資
関係会社 (連結子会社)	9 (2社)	- (-社)	- (-社)	- (-社)
投資育成関係会社 (連子&持分法会社)	0 (1社)	5 (5社)	- (-社)	1 (1社)
投資育成有価証券 (非連結)	0 (1社)	- (-社)	4 (3社)	- (-社)
投資有価証券 (非連結)	4 (7社)	30 (1社)	- (-社)	- (-社)
合計	13 (11社)	35 (6社)	4 (3社)	1 (1社)

2004年度中間期実績 主な新規投資 概要 (ITX単体及び米国投資会社からの投資)

(1/2)

	投資時期	投資額 (百万円)	出資比率	事業内容及びITXの関与内容
(連結子会社)				
ティーメディクス	04年4月	35	70%※	医療機器販売分野において、Cost Per Procedureをメインにした、新しいサービス提供

	投資時期	投資額 (百万円)	出資比率	事業内容
(非連結)				
フージョンパートナー	04年4月	4	0.1%	データベース管理、システム販売、技術サポート及びコンサルティング等のサービス提供
Acologix *	04年4月	100	1.0%	骨粗鬆症、歯疾患、歯周病、慢性腎不全、炎症性疾患および癌を適応疾患とする医薬品の開発
アムニオテック	04年5月	45	2.3%	羊膜由来のコラーゲンシートを利用した眼科分野における再生医療

・フージョンパートナー=データベース・コミュニケーションズが本年10月商号変更

* : 米国投資子会社からの投資

ITX Corporation ※ : 04年10月1日出資比率100%に

33

2004年度中間期実績 主な新規投資 概要 (ITX単体及び米国投資会社からの投資)

(2/2)

	投資時期	投資額 (百万円)	出資比率	事業内容
(非連結)				
アリジェン	04年5月	74	1.0%	感染症を対象とした医薬品の開発
Gene Excel *	04年6月	56	12.8%	遺伝子治療用材料の受託生産および遺伝子治療を対象とした研究開発
エフオーアイ	04年7月	72	0.8%	半導体製造用プラズマエッチング装置の開発販売
テルミナス・テクノロジー	04年8月	68	11.7%	インターネット機器用LSIの開発販売
医薬分子設計研究	04年8月	53	1.0%	狭心症、心筋梗塞、リウマチ等を対象とした医薬品の開発
タカラモバイルエンタテインメント	04年9月	50	1.0%	モバイルコンテンツ配信、モバイル関連グッズの販売、モバイル放送事業

* : 米国投資子会社からの投資

ITX Corporation

34

6. 会社概要

会社概要

- ◆ 代表取締役社長： 横尾昭信
- ◆ 営業開始： 2000年4月1日
- ◆ 事業内容： IT分野における投資育成及び機器販売・サービス
- ◆ 上場市場： ヘラクレス市場（コード2725）

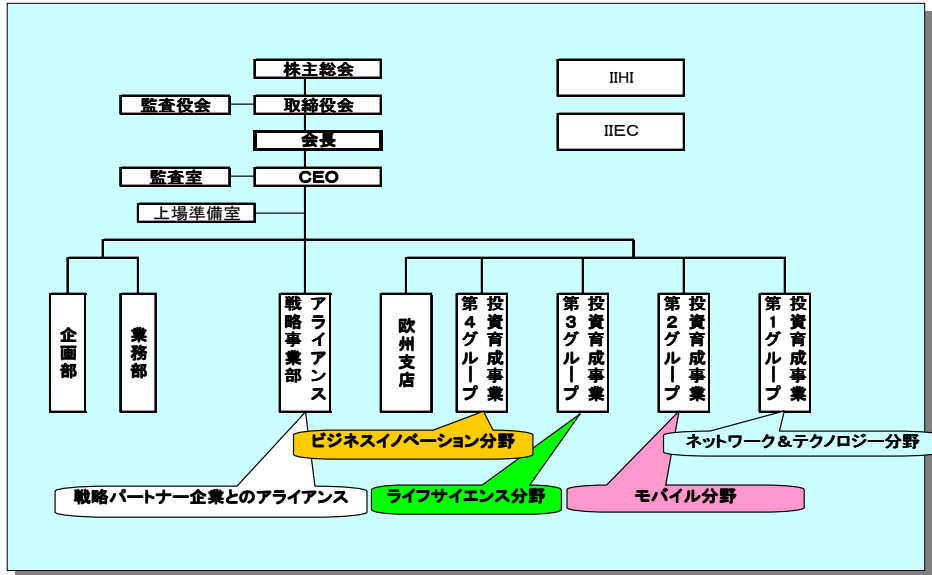
- ◆ 発行済株式総数： 490,240株
- ◆ 資本金： 204億円56百万円
- ◆ 資本準備金： 279億77百万円
- ◆ 連結売上高： 4,120億円(2003年度実績)
- ◆ 連結当期利益： 6億円(2003年度実績)

- ◆ 従業員数※： 113名（役員・執行役員を除く正社員数）
- ◆ ITXグループ従業員※： 約1,400名（連結子会社従業員のみ）

- ◆ 主要株主※： オリンパス㈱(58.7%)、船井電機㈱(7.7%)、バンクインリヒテンシュタイン(5.0%)、エルジーティークラスファンドアイティベンチャーズ(3.8%)、ベアスターズアンドカンパニー(3.0%)
- ◆ 主要取引銀行※： UFJ銀行、三井住友銀行、東京三菱銀行、あおぞら銀行、農林中央金庫
- ◆ ※データは2004年9月30日現在

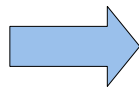
ITX組織

(04年9月30現在)

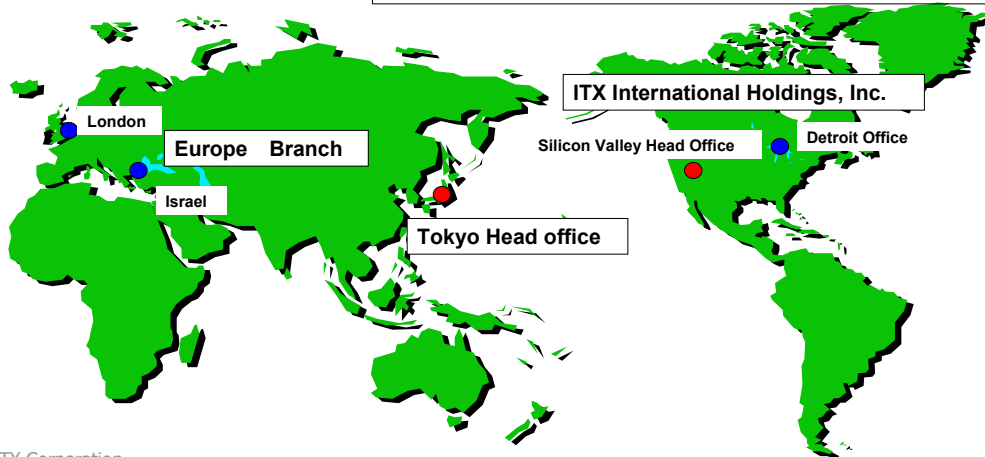


海外拠点網

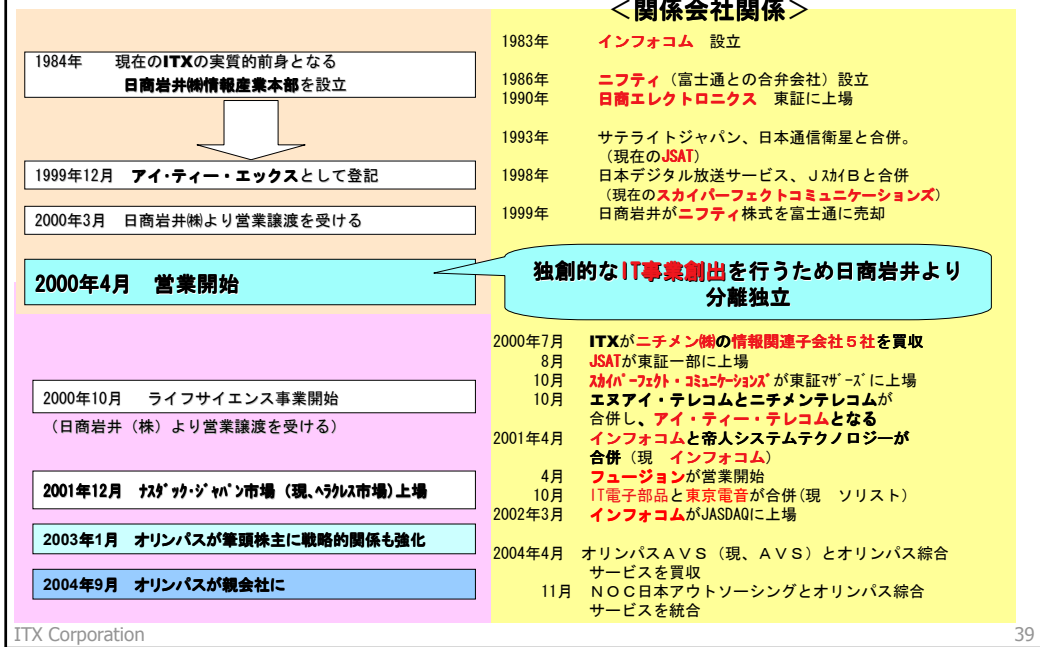
ITXグループ
の三大拠点



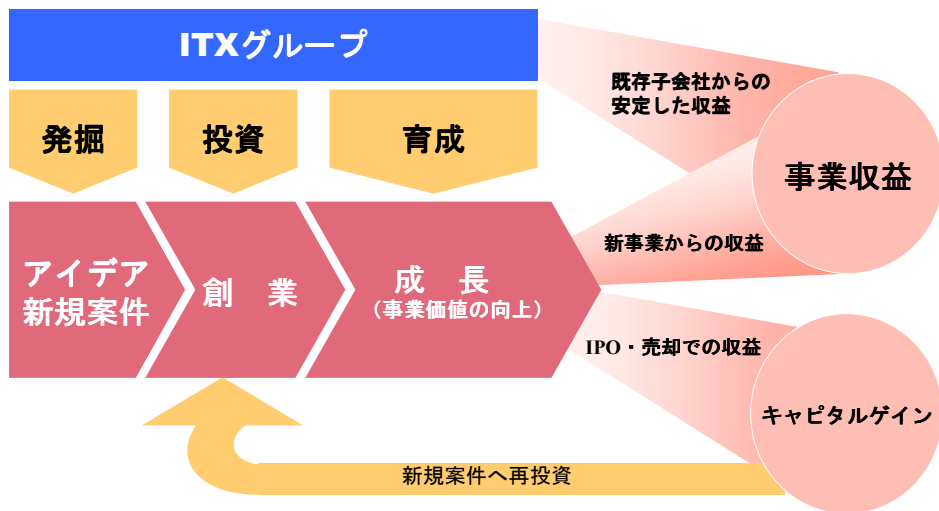
- ITX(日本)
 - ITX International Holdings (米国) / 10名
 - ITX Europe Branch(欧州) / 4名
- 04年9月30日現在



ITXの沿革



事業創出モデル&収益構造



ITXのビジネスモデルの特徴①

ユニークかつ高い収益が望める事業で、ITXが経営・運営・育成に深く関与できる案件を主体に投資する

成功確率の極大化及び事業価値増大の迅速化の為に経営陣・人員の派遣を含めITXの有形無形の経営資源を活用し育成を行う

投資先がグループ会社になる場合に、投資先の期間収益はITXの連結数値に反映される

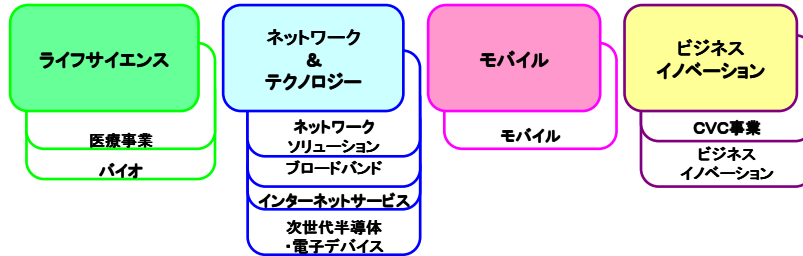
ITXのビジネスモデルの特徴②

日本型VCとの違い

事業主体となって「投資育成」を行う

- ・ 事業コンセプトステージ / シード / アーリーステージ投資が主体
- ・ 経営権掌握
- ・ 役員/人員の派遣およびグループ会社の総合力を挙げての支援による本当の“ハンズオン・スタイル”で投資先を育成
- ・ 投資先の企業価値の向上に注力
- ・ Exit コントロール
- ・ グループ会社間のバリューチェーンを生み出す

ITX Group 事業領域



・ ※各社の事業はパンフレット「主要グループ会社」をご参照ください。

7. 経営基本計画 概要 (2006年度に向けて)

数値目標

◆2006年度 連結当期純利益100億円

◆<連結事業収益合計>

億円

売上高	5,000
営業利益	200
当期純利益	100

◆<セグメント別収益>

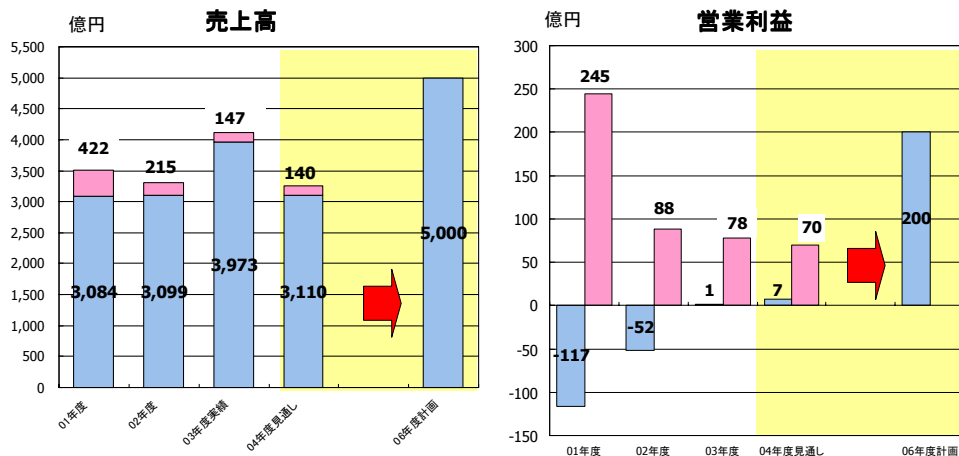
億円

	ライフサイエンス	ネットワーク & テクノロジー	モバイル	ビジネス イノベーション
売上高	800	2,000	2,000	200
営業利益	50	80	70	20

* 備考:上記以外に全社事業コストとして営業利益で△20億円

- ◆ 上記数値には03年1月の戦略的關係強化以降オリンパスとの間で検討を進めている医療事業、次世代半導体・電子デバイス分野等での新規事業からの収益を見込む
- ◆ 計画値に反映していませんが、3年間で株式売却 400億円～500億円 を想定

連結損益推移



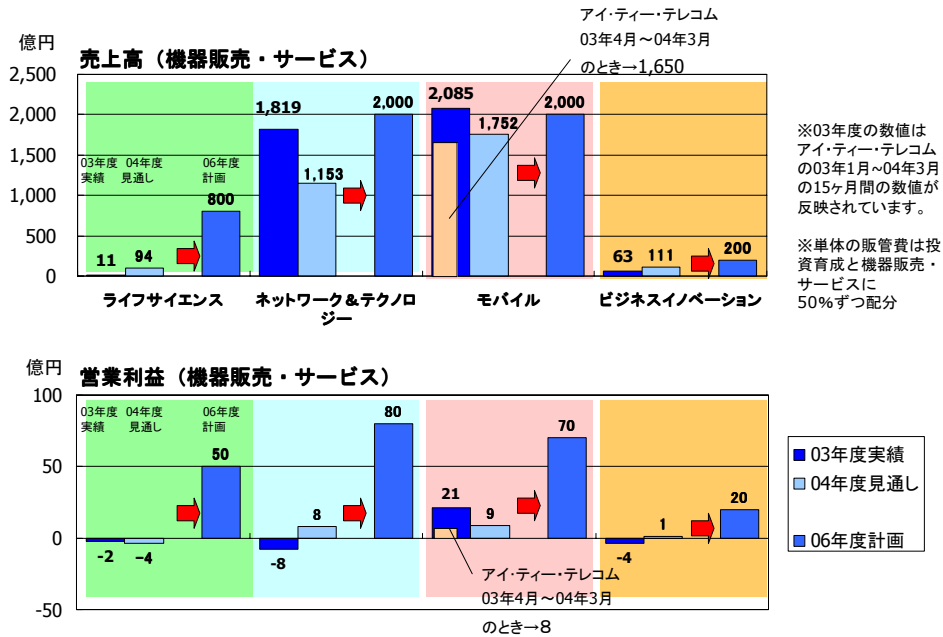
■ : 投資育成 □ : 機器販売・サービス

※上のグラフの06年度計画は機器販売・サービスの計画値のみ。

※投資育成に関しては計画値に反映していません。

※03年度の数値はアイ・ティー・テレコム03年1月～04年3月の15ヶ月間の数値が反映されています
※単体の販管費は投資育成と機器販売・サービスに50%ずつ配分

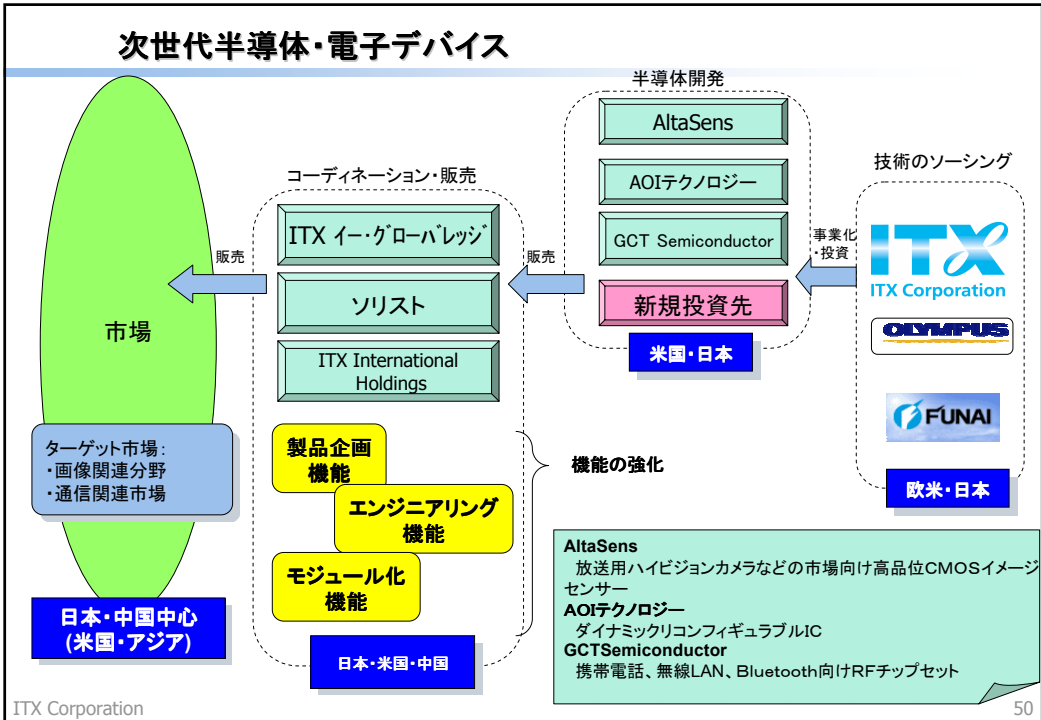
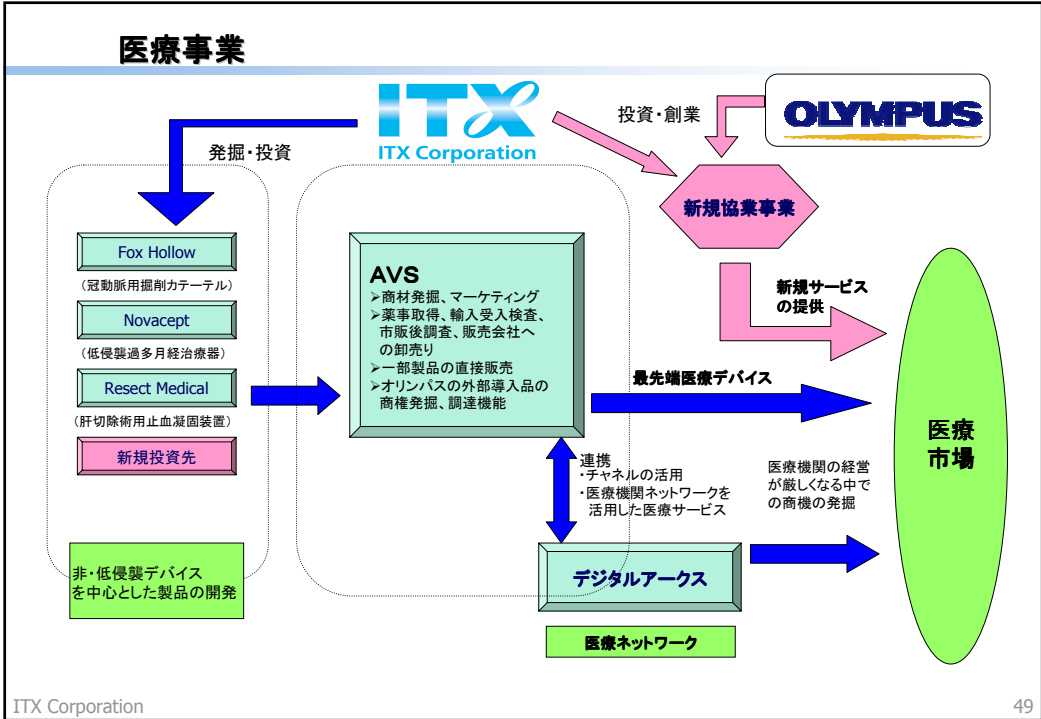
セグメント別 機器販売・サービス 損益の推移

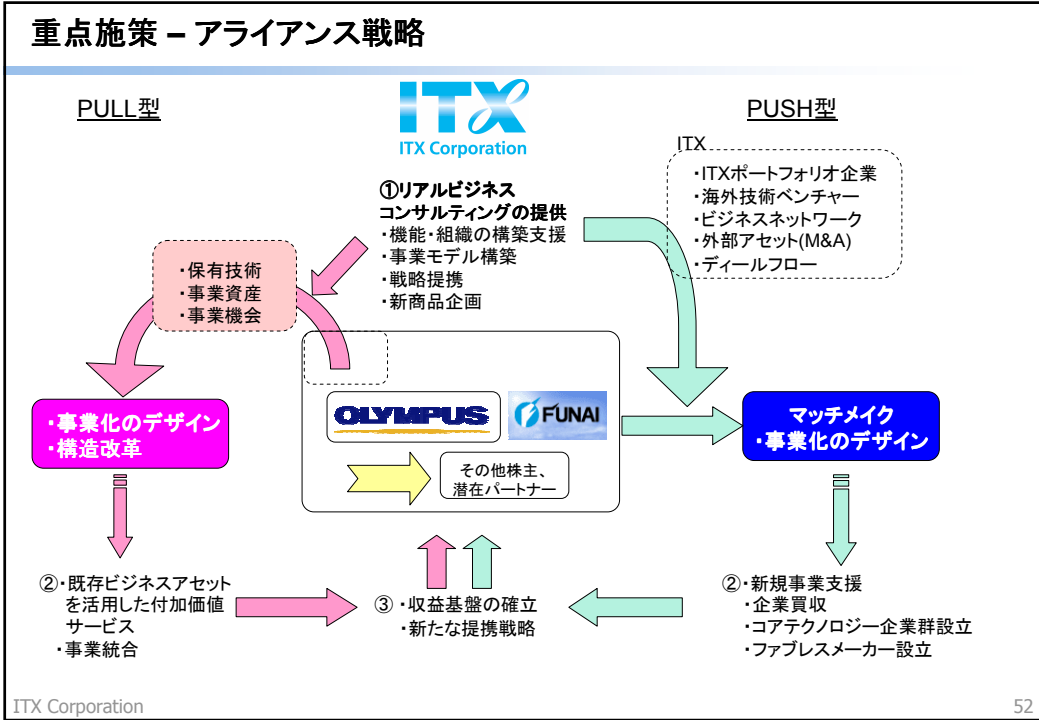
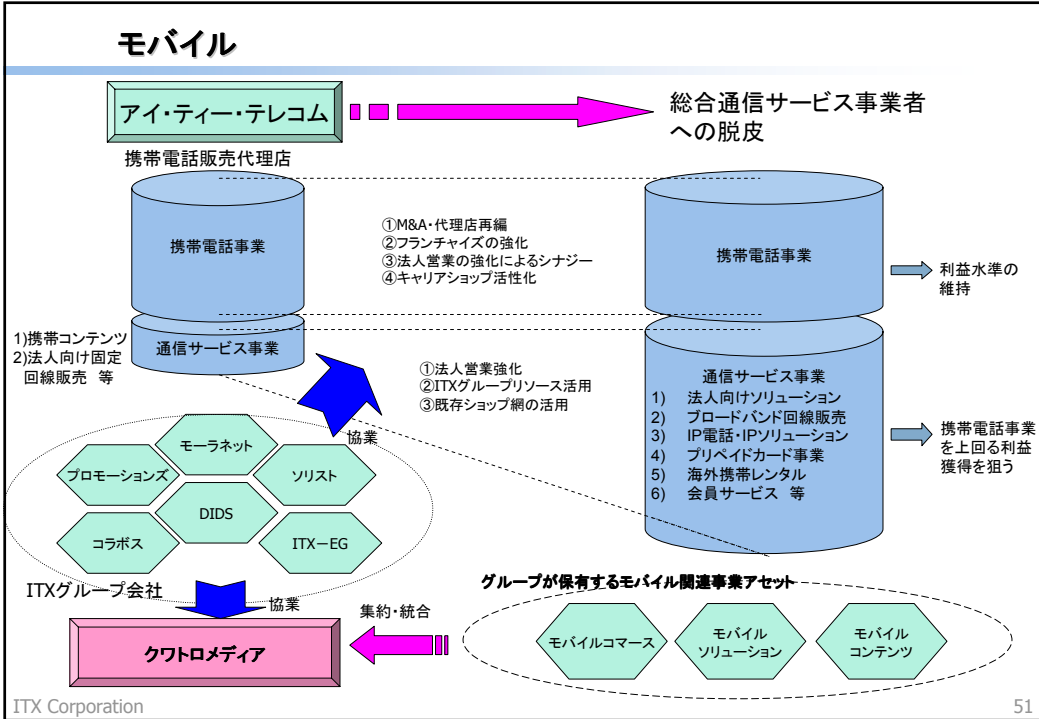


3年間の重点事業分野

	重点事業分野	3年間の新規投資 予定額（億円）
ライフサイエンス	・医療事業* ・バイオ	100
ネットワーク & テクノロジー	・ネットワークソリューション* ・ブロードバンド ・インターネットサービス ・次世代半導体・電子デバイス	150
モバイル	・モバイル*	150
ビジネス イノベーション	・CVC ・ビジネスイノベーション	100
合計		500

*：重点的に新規投資を行う分野





重点分野における戦略【ライフサイエンス】

◆ 医療事業

- **AVS**:『ユニークかつイノベーティブな欧米最先端医療技術を提供する事業体』として専門性を高め、ソーシング・販売の機能強化
- オリンパスとの協業により医療業界における独自新規サービス事業、新規医療デバイスの開発を推進
- **デジタルアークス**:医療機関ネットワーク(医療機関相互連携)ビジネスの拡大

◆ バイオ

- ゲノム創薬支援分野・再生医療分野における、後の市場拡大を見据えたソーシング能力強化
- **ジーンフロンティア**:マーケットにおけるブランドの確立
- 海外の案件ソーシング機能を梃子として、オリンパスとの共同事業を推進

重点分野における戦略【ネットワーク&テクノロジー】 (1)

◆ ネットワークソリューション

- セキュリティ分野等特定分野におけるネットワークソリューションのメインプレイヤーになる

ITXイー・グローバルッジ
の顧客基盤

+

テクマトリックス
のシステム・インテグレーション力

+

マークエニー・ジャパンのDRM等
グループ各社の特色ある製品群

- デバイスフリー、ロケーションフリーなユビキタスプラットフォームの構築

◆ ブロードバンド

• 光ブロードバンド

- 法人マーケットに対して、**ユーズコミュニケーションズ**の光インフラをベースに、**モラネット**を中心として、光ブロードバンド回線によるインターネット接続、ブロードバンドアプリケーションを提供

• ケーブルテレビ

- デジタル放送サービス、ペイ・パー・ビュー、VoIP等の新サービス投入
- きめ細かな顧客アフターサービス体制構築

• 双方向サービス

- **DIDS**:デジタル放送の普及をにらみ、携帯電話サイトを含めた多様なメディアにおける双方向サービスの実績を積み、ブランド向上とパートナー獲得による事業基盤強化

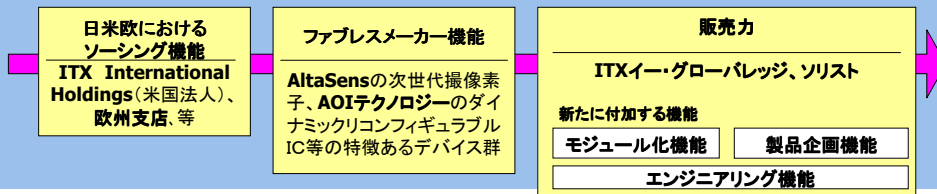
重点分野における戦略【ネットワーク&テクノロジー】(2)

◆ インターネットサービス

- プロモーションズのwebマーケティング、ネットプロテクションズの決済、eコマース事業等インターネットサービスの各レイヤーに対し垂直統合的に投資し相互に事業連携
- ブランド、信用力を確保し事業成長を加速すべく、各機能会社の早期IPOを支援

◆ 次世代半導体・電子デバイス

- 画像処理分野、通信分野等の特徴ある領域において、チップ単体のビジネスのみならず高付加価値型のモジュールビジネスへ拡充、高収益モデルを確立



重点分野における戦略【モバイル】

◆ モバイル

- モバイル分野のコア会社アイ・ティー・テレコム^①の進化
 - 携帯販売事業中心のビジネスから『総合通信サービス事業者』へ
 - 大企業、中小企業、SOHO、個人といったすべての顧客に対し、キャリア、ベンダー、プロバイダー(コンテンツなど)が供給するハード・サービスをワンストップで提供
- ITXグループ内に分散しているモバイル関連サービスの事業アセット(コンテンツ・コマース・ソリューション・メディアミックス・双方向サービス)を集約した独立企業の設立

重点分野における戦略【ビジネスイノベーション】

◆ CVC(コーポレート・ベンチャー・キャピタル)

- ITXグループの各事業領域のアンテナ機能をも果たす
 - 案件発掘・投資サポート機能に対するフィー収入獲得
 - 特定領域にてパートナーとのファンド組成を目指す

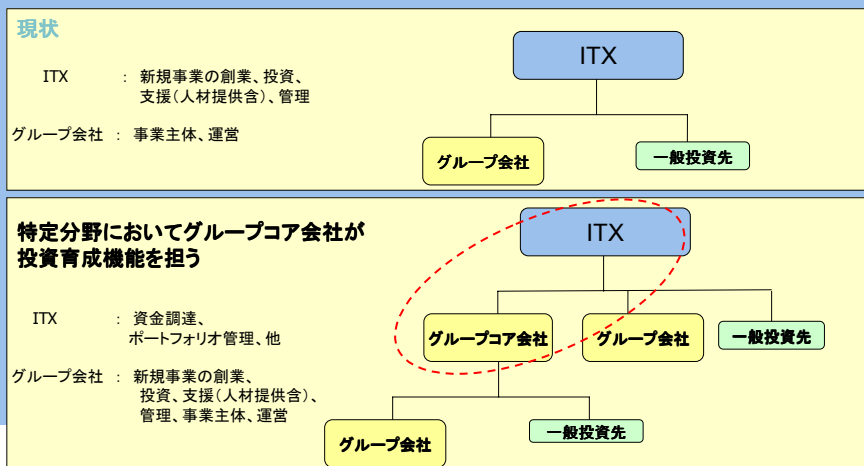
◆ ビジネスイノベーション

- 企業再生投融资、未公開株セカンダリ投資、事業再編に伴うバイアウト投資等プライベート・エクイティ投資事業の基盤構築
- コンサルティング機能の提供を担う会社(事業再生: **ミネルヴァ債権回収**、採用支援・CRMソリューション: **アトラクス**、総合アウトソーシング: **NOC日本アウトソーシング**)の機能を強化
- IPX**: 特許分析、特許関連コンサルティングを通じ確保した顧客資産をベースに、特許資産流動化市場を掘り起こし、知財関連ビジネスにおけるパイオニアとなる

グループ経営の方針

◆ ITXとグループ会社の機能

- ①グループ資金調達、ポートフォリオ管理等ITXの機能の強化を図り、事業分野によっては特定のグループ会社を同分野でのコア会社と位置付け、ITX機能を移管

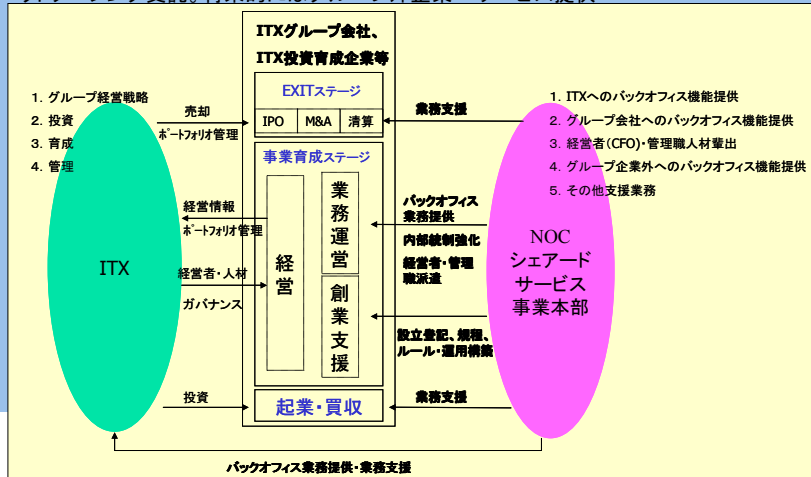


グループ経営の方針

◆ ITXとグループ会社の機能

② NOC日本アウトソーシング シェアードサービス事業本部よりバックオフィス機能提供

- グループ企業のバックオフィス業務の効率化、連結販売管理費の削減、業務改善、人材の育成。グループ会社へのバックオフィス関連のコンサルテーション、バックオフィス機能のアウトソーシング受託。将来的にはグループ外企業へサービス提供



グループ経営の方針

◆ ITXとグループ会社の機能

③ 海外

■米国・欧州

- 機器販売・サービス収益とキャピタルゲインによる収益の獲得
- ITXグループへのソーシング及びアンテナ機能強化

■中国

- グループ会社の中国拠点をベースに製品・サービスの市場開拓を行うことはもとより、未開拓の中国独自の優位性を発掘・事業化

◆ 事業統合と再編

- グループ内の同一事業分野内の事業アセットの集約

◆ 人材育成/確保

- プロフェッショナル人材(起業、投資、経営、運営、市場別ゲートキーパー)の育成と外部からの獲得

◆ 財務体質の改善

- 有利子負債の削減及び株主資本の充実を通じて、早期に負債倍率1倍以内を達成
- 資本市場からの資金調達を含めた資金調達ソースの多様化

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報或いは合理的であると判断する一定の前提に基づいており、これらは経済環境や競争状況、市場環境などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績等の結果は本資料に記載されている目標や計画と大きく異なる場合があります。